



平成25年7月29日

卓話 『リーダーに必要なスキルとスタイル』

公益財団法人日本ラグビーフットボール協会
コーチングディレクター

中竹 竜二 様

皆さんは自分がリーダーに向いているかどうかと聞かれたときにどう答えますか。リーダーになることが好きか嫌いかと聞かれたときはどうでしょうか。自分のことが好きかどうかというのはどうですか。また自分のことをよく知っているかどうかというのはどうでしょう。これを知らない一、二、三の質問に答えにくいですね。最後に、例えば皆さんがリーダーとして成長したいと思っていたとして、今の質問のようなことって普段考えますか。この5つの質問、面白いのは下の方から逆に問いかけていくとリーダーの能力って上がるんです。人間って普通に考えるとリーダーの資質を付け、自信を付けて成果を出そうとするけど、実はそうじゃなくて、例えば自分のことちゃんと知っているとか自分のこと肯定的に認められる自己肯定感があると、リーダーとしてのパフォーマンスが上がるんですね。これアスリートパフォーマンスも同じです。

リーダーあるいはコーチとして大切なのは当然スキルですが、もっと大事なものはスタイルです。僕は大学時代は3年生まで補欠で、主将をやったときは実はコーチ経験ゼロでした。卒業してサラリーマンやっていたら、いきなり母校に呼ばれて監督をやってくれと言われ、右も左も分からないままやったわけです。これは結構珍しいんですけど、なぜそれでできたかという、僕自身いろんな人に力を借りながらやるというスタンスでやってきたんです。専門能力がなくてもリーダーは可能だというスタンスと、現場の知識とマネージメントは別ものだと思ってやってきました。

僕はスキルとスタイルは分けて考えています。スキルって選手でいえばパススキル、キックスキルですね。上手いか下手か。それに対してスタイルは、あるかないかが問題。スタイルについてよく言われるのは個性とか独創性ですけど、僕はスタイルは一貫性だと思います。何故一貫性なのか。例えば部下が指導者の実力を見抜く瞬間ってどこかという逆境なんですよ。組織が駄目になったとき、みんなが不安になったときに、リーダーはどんな顔してるだろうって見るわけです。その時に普段言っていることと違うと、この人何なのってなるわけですね。

僕のモットーは怒らずに考えさせること。一切怒らないです。怒らないようにしてどんどんやる気にさせるのが僕のスタイル。リーダーは今までだったら何でも知っていて何でも正解出せるっていう感じだったけど、これからのリーダーはとにかく、知らないよ、こういうことできませんよって言えるかどうかなんです。これ言って、僕、半年ぐらい溜息つかれ舌打ちされましたけど、半年過ぎると段々、あなたできないんだったら僕が考えますって言って、結果、全国優勝2連覇、学生がやってくれました。僕はスタイルを大事にしていくと、もしかしたらリーダーが育っていくんじゃないかって、今、感じています。ありがとうございました。

